

会員の広場



極東ロシアの印象

松井 和明（東京）

一昨年夏、成田から2時間半、「シベリア鉄道でつなぐウラジオストクとハバロフスク4日間」という小旅行に参加した。ごく一瞥しただけであるが、その印象を紹介しておきたい。

まず、ロシアは軍事国家であり、強い男の銅像も目に付くこと。

ロシア正教は、1000年の歴史があるという。教会等の施設は、ロシア革命で破壊されたが、近年再建、新設された金ぴか・カラフルな大聖堂や教会が目についた。内部にはイエス、聖母子、聖人、説話などをテーマとしたアイコンが飾られているが、説教をするスペースはなく、椅子も置かれていない。ウラジオのボトロフスキー聖堂には、ドイツのモスクワ侵攻を控えたスターリンが盲目の女聖人マトローナを訪ね、戦争の行方を占つてもらい勝利を確認したといわれる。プーチンも本質的には、保守的、伝統的、宗教的な人間であり、正教を重視しているようだ。領土が世界一だけあってとてつもなく広いこと。

ウラジオストク(以下、ウラジオ)は、軍港都市であるが、要塞博物館(要塞跡。各種砲台戦車、武器等展示)、C56潜水艦博物館(第二次大戦で活躍したエンジンなどがドイツ製の潜水艦)、ハバロフスクでも軍事博物館(赤軍博物館。歴代ロシア軍の戦車やミグ戦闘機、各種の武器を展示)など、軍事を重視する姿勢が目についた。そういえば、モスクワ訪問時(95年)に乗ったスターリン製造による地下鉄はプラットフォームまで地下深く84m潜るが、核シェルターを想起させた。男の銅像も目立つ。国境警備隊長、都市名となったハバロフ像、ウラジオ駅前にはレーニン像まであった。プーチンが時に柔道で、時に裸で肉体を誇示する理由も理解できた。

次いで、ロシア正教を認知し大切にしてい

「約800kmと近い」ウラジオーハバロフスク間でも鉄道で11時間。夜行列車で眺めていると、ハバロフスク付近まで暗闇で草原や低灌木の森が続いた。ウラジオ駅はシベリア鉄道の東の起点、駅舎は帝政ロシアの香りを残す。ユーラシア大陸を横断する世界最長のシベリア鉄道。モスクワまでの距離は9、280km、鉄道で14時間、7日間かかる。ハバロフスクで遊覧したアムール川(中国名・黒竜江)も、全長4、368kmと長大、付近は中流域で中国との国境。16世紀のイワン雷帝以来の領土膨張策は脈々と受け継がれ、1860年清国から満州のこの地域を取り上げ、スターリンは周辺国を取り込み、プーチンはクリミアを併合。領土を返したことはないようだ。